

会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 1-49	第2回墨田区基本構想審議会		
開催日時	令和6年6月26日(水) 19:00から21:00まで			
開催場所	すみだ共生社会推進センター			
出席者数	<p>【委員】加藤久和(会長)、上野武(副会長)、阿部貴明、角山剛、駒村康平、鈴木みゆき、老田勝、井上佳洋、森山育子、佐久間之、島田泰子、岸成行、鎌形由美子、庄司道子、星野喜生、西村孝幸、平林秀敏、山室学、須藤正、杉山達雄、金谷直政、相澤純一、木村優太、佐藤祥子、真鍋文朗、山口亮(計26名)</p> <p>【事務局】岩佐企画経営室長、楠政策担当課長、行政経営担当主任(土川)、政策担当主査(原、田部井)、政策担当主事(田中)</p>			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	3人
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回審議会における指摘事項について 2. 新たな基本構想の策定に向けた論点整理について 3. 部会の概要、今後の進め方について 			
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第 2. 墨田区基本構想審議会委員名簿【資料1】 3. 第1回審議会における指摘事項【資料2】 4. 新たな基本構想の策定に向けた論点整理【資料3】 5. 部会の概要、今後の進め方【資料4】 6. 論点整理レポート(本編)【冊子1】 			
会議概要	<p>1 第1回審議会における指摘事項について 事務局から資料2について説明した。 以下、質疑応答 (角山委員) 資料1の「5 今後の予定」と資料4の「部会の検討スケジュール(案)」で、第2回の部会開催予定日の表記の順番が異なるが、資料4より、第2回の第2部会開催日は8月22日でよいのか。 (事務局) 資料4については、開催日を日程順に並べているもので、各部会の開催スケジュールは資料2に記載のとおりである。つまり第1部会は8月19日、第2部会は8月29日、第3部会は8月22日が開催日となる。</p>			

(真鍋委員)

構想期間を10年にした場合の悪い点に「策定時に目指すまちの方向性に大きな差異が生じない可能性がある」とあるが、これは良い点ではないのか。

(事務局)

10年とした場合に具体的なものが見えるという点を良い点として捉えることもできるが、あまりにも具体的すぎると夢を広く描けない可能性があると考え、今回の資料では悪い点として記載した。

(木村委員)

資料が紙配布されているが、希望者にはデータ配布していただくことは可能か。

(事務局)

今後希望を取らせていただく。希望者にはデータ配布し、パソコンやタブレット等の端末で見ていただくような方法を次回以降の審議会で考えさせていただきたい。

(阿部委員)

区議会の議決により定められた宣言、墨田区基本計画に記載されている表現について、資料2に記載されているもので問題がないか再度確認していただきたい。

「すみだの夢 実現」や「暮らし続けたいまち 働き続けたいまち 訪れてみたいまち」の3キーワードが資料2に記載がないのはなぜなのか。

(事務局)

「すみだの夢 実現」や「暮らし続けたいまち 働き続けたいまち 訪れてみたいまち」の3キーワードについては、全体的な表現であるため、資料2から記載が漏れていた。次回の審議会に向けて、再度精査をして、改めて提供させていただく。

2 新たな基本構想の策定に向けた論点整理について

事務局から資料3について説明した。

以下、質疑応答

(上野委員)

説明でもあったように、都市インフラに関わるような動きは、10年では実現しないことが非常に多い。そのため、2035年以降の社会情勢の変化を意識しながら、2035年の姿を描くということを共通認識にして議論していく必要がある。

(事務局)

おっしゃられるとおりで、人口が増加している状況以上にやはり人口減少の際には様々な行政課題が顕在化していくと考えている。これから先10年間の中で、そこから先に備えておかなければいけないというところを非常に強く意識として持っている。そういったところは是非、皆様と議論させていただければと思う。

(木村委員)

強みや弱み、課題などが起きている構造的な問題が資料2から見えてこない。墨田区に詳しい人によって語られた構造的な問題に係る資料があると良いと感じた。

例えば、中学校ではプログラミングを行っているが、その子どもたちは町工場で働くイメージがあるのか。おそらく都内のIT企業などで働くのではと思う。その他、南北問題と言われているが、南ではビルが多く、転入者も多い。一方で北では木密地域で、細い道がいっぱいあったりする。

そのような構造的な話がわかると、より見通して方針を考えることができるかなと感じた。

(事務局)

墨田区の特徴として、昔は家族経営の町工場が多かったことから、そこに住み、働いているという方が多いのが特徴だった。それがだんだんと変わり、今は住んではいないものの、働く場所が墨田区の外にある方も増えてきている話も伺っている。

そういったものを網羅的に資料としてまとめるのは難しいところではあるが、今いただいた2項目については、考え方を整理させていただきたい。

また、同じような形で、こういう部分に構造的な問題があるのではないかとというような意見があれば、同様に整理させていただきたいと考えている。

(阿部委員)

現在分かっている夜間人口と昼間人口、職住一体人口、住居と職場どちらも区内にある人がどれくらいいるのかが分かる統計資料をいただきたい。もし過去と比較できるようにあればありがたい。その他、可能であれば、総人口に対する外国人の推移、転出人口、定住具合が分かる統計データがあると、目標を立てやすくなるのではないかと。

あと、人口に関して言うと、他自治体のことは考えず、墨田区だけのことを考えればよいのか。

(事務局)

夜間・昼間人口のデータはある。職住一体人口については、国勢調査の調査項目にあるかどうか確認させていただく。調査項目としてあればデータを取得できる。外国人人口の推移については、現在取得しているところ。定住人口については、統計データがあるかどうか確認させていただく。

これらの統計データについては、準備できるものが整い次第、次回の部会までに皆様に提供できるようにしたい。

地域間競争の件については、審議会の中で皆さんの合意を図っていければと考えている。個人の意見として申し上げますと、他自治体がどうこうではなく、墨田区がよりすばらしい区になることを、まず目標に掲げることが大事であると考えている。その中で、競争が行われて、他の地域でも努力が重ねられて、結果として全体が良くなっていくということが望ましいかと思う。あくまで区として区の最も良い未来を描こうというところが良いのではないかと考えている。

(角山委員)

区民アンケート調査について、過去のデータと比較した資料はあるのか。

(事務局)

区民アンケート調査は基本構想を作るタイミングで、項目設定して行った調査になっていて、継続的な調査を行っていない。

ただ2年に1度行っている住民意識調査の中で、例えば生活環境に関して、良いと感じているかどうかというような定点調査を行っているので、今いただいたような意見も踏まえて、区のイメージが過去からどのように推移してきたかどうかを分析できないか確認させていただく。

(森山委員)

区民アンケートと区報アンケートについて、区民アンケートは区内に居住する1

8歳以上が対象であるのに対し、区報アンケートは対象の表現が異なっているのはなぜか。

調査対象数などが異なるからなのかもしれないが、資料3に掲載の水色(区民アンケート)と緑色(区報アンケート)の棒グラフの数字に大きな開きが出ているのはなぜか。

(事務局)

区民アンケート調査については、無作為抽出した3,000名に、30問程度の紙の調査票を郵送し、回答いただいている。一方で区報アンケートでは抜粋した問いをWEBで回答いただいているが、WEBの仕組み上、回答しようと思えば、誰でも回答できたというのが実情。ただ基本的には、区のSNS等で発信しているので、区民の方以外は回答されなかったのではないかと推測している。

数字のばらつきがある件については、区民アンケートについては744件の回答がある一方で、区報アンケートについては188件の回答しかなかった。あくまで区報アンケート(緑色の棒グラフ)については区のSNSとかを特に見ているような、区政に対しても特に興味がある方が回答していただいたような可能性が高いと思っている。そういったところから、例えば、「人つながる 墨田区」を強くアピールしているのが、墨田区のイメージとして「地域のつながりが強いまち」であるという回答が多かったのではと受け止めている。

(西村委員)

今回の配布資料に財政に関わる資料がなかったが、基本構想では、お金の部分はあまり意識せずに行うという認識でよいのか。それとも、例えば人口が減って行って、高齢者の割合が増加すれば、ある程度義務的経費が増えるだろうという認識の下、部会に臨めばいいのか。

(事務局)

区の財政状況の分析は今後行う予定で、タイミングをみて、お示しする。

昨年度資料作成することも検討していたが、先に財政状況をお示ししてしまうと、そこに意見が縛られてしまうのではないかと思います。まずはしっかりと、こういうまちであるべきだという議論をいただいた上で、財政状況をお示しさせていただいて、修正があれば修正をかけていく。そういうやり方が望ましいと考えた結果、今回の資料として用意していない。

(駒村委員)

人口と住居の問題はキーになってくる。そこで区として何が分かっている、何が分かっているのか、はっきりしていただいた方がよい。

例えば人口については、過疎地もあれば、高齢化地域もあると思うので、エリアごとの構成人数と世帯類型、それがどの程度のメッシュなのか、そして将来どうなると考えているのか。

また、老いるマンションというのは、建物が古くなっている場合と、住民が高齢者になっている場合の2つがある。後者の方は、意思決定に住民が参加できなくなってしまう問題があるが、住民に占めるマンション比率など、マンションの高齢化問題をどのように、どこまで把握しているのか。

そこまで詳しくなくても、東京都や区の方である程度把握されている人口と住居に関する重要な数字などを一覧で整理いただきたい。

あと墨田区だけを考えておけばいいのかという議論について、墨田区は緑と言っている、公園面積は東京都の中では上位でないわけで、他の地域との交流みたいなものを行っていくとか、そういう部分で墨田区に足りないものは何なのかなど意識して議論していく必要がある。

(事務局)

居住地域ごとで、どれくらいのメッシュで、できているのかというような話について、現状メッシュの形で把握できているものがない。

ただ、8つの地域包括支援センターごとにそのエリアの高齢者の状況を把握している。そういったものの中から必要な統計資料がどの程度取れるかを整理した上で、またお示しをしたい。

人口推計の将来予測については、以前メッシュに分けて推計をかけてみたところ、小さな区であることから、地域ごとの推計がかなり乖離してしまったので、将来推計という中では、基本的な考えとして、メッシュで行うことは考えていない。

2点目のマンションの居住者の比率について、先般、墨田区において住宅マスタープランを改定しているため、その中でどのような情報を収集しているのか整理させていただく。先ほどいただいた情報やマンションの居住者数は何人ぐらいいるかは、区としては把握していなかったと認識している。

国勢調査などで、戸建てに住んでいる、共同住宅に住んでいる程度であれば、分かるかもしれないが、例えばそれが賃貸なのか、購入しているのか、分譲なのかということも含めると、どこまでの分析ができるかは、確認した上で、回答させていただく。

3点目の合計特殊出生率と有配偶出生率について、合計特殊出生率は区としても毎年出しているの、お出しできる。ただし現時点では令和4年度の状況までのものとなる。

先般、新聞報道で、東京都の合計特殊出生率が1を切り、大きな話題となったところである。本区における令和5年度の状況は現時点で出ていないが、昨年度の時点で、既に東京都の平均を下回っていたことから、1を下回った東京都よりも低い可能性もあるのではと思っている。

また、有配偶出生率については把握していないが、担当部署にどのぐらいのものであればわかるかは、今後確認させていただく。

ただし、合計特殊出生率が減っている要因として、先ほど申し上げた出生数が少なくなっている状況に加え、女性の単身世帯が増えている状況は把握しているところなので、もしかすると、有配偶出生率は、また違う数字が出てくるのではないかと推測しているところである。

4点目の他地域・地方との交流について、令和4年度から7年度までとしている基本計画において、今後大切していかなければならない概念として、関係人口という概念を入れている。定住人口や交流人口とは異なり、長期的につながって関わり続けようと思ってくれる方を増やしていかなければならないという考えはすごく大切なものとして持っている。

区として良くなっていくためには、そのような地方とも、両方ウィンウィンの関係を作っていくことは非常に重要だと思っている。

ただそれでも墨田区として、より良い未来を目指すというところについては、変

わりなく持たなければならないと思っている。

(加藤会長)

住宅、住みたいまち、土地、人口、世帯、働き方、そういった基本的な統計データで議論ができるようなものを、委員の皆さんに提供いただけると良いと思う。

(真鍋委員)

資料3の12ページの区民アンケート調査で、参加意向の割合が低いと思うが、時間がないのか、体力がないのか、その深堀があつたらいいのかなと思う。

また、治安が良くないイメージを持たれている方が多いと思うが、どのようなところに治安が良くないと感じるのか、そのようなところを具体的に深堀できれば、構想を立てやすいと思う。

(事務局)

参加意向が低い理由については、特に高齢の方、70代以上の方となると参加意向が非常に低くなっているところだが、自由記載欄の中にやはり体力的な理由で、参加が難しいと考えているというようなご意見があつた。

若い世代については、共働きなどが増えていく中で、働くことと家庭のことで手いっぱい地域になかなか入れないのではないかと推測している。

そういった中で、逆に60%を超えるような参加意向があるというのは、率直に申し上げて意外に感じているところ。それだけの方に考えていただいているというのは、すごくありがたいことだと思った。さらに参加しやすいような、関わりやすいような仕組みづくりを行っていくべきと感じている。

(木村委員)

働くことと住むことは一体のものだと思っている。墨田区の産業の歴史について、どういう産業が減っていった、どういう産業が増えているのか、そういう歴史的なところが見えてくれば、働くことと住むことが透けて見えてくるのかなと思っている。語り部みたいな人がいるとありがたい。

(事務局)

スカイツリーの開業に伴い、本区の観光を打ち出していく際に、観光は歴史と紐づいているというような、墨田区らしさをPRしていくことが一番大切であると考え、産業の歴史的な部分も観光的に見せるための整理を行った経過がある。観光協会の森山委員にもご相談させていただいて、対応について検討させていただきたい。

(相澤委員)

SWOT分析の他区比較について、渋谷区と比べてもしょうがないのではないかと考えている。

また、各県の自治体との比較資料があればいただきたい。その他、この自治体になりたいとか、この自治体には負けたくないというものがあれば、教えていただきたい。

(事務局)

他区比較では、近隣区と同規模区を掲げている。エリアが近いというのは、やはり似たような産業構造や人口構成になりやすいというところがあるので、比較対象とした。また面積と人口の規模感が近いというのは、その中でもやはり違いがあつて、本区としてはこのような強みがあるということが分かるため比較対象とした。

話のあった渋谷区と本区が違うことを前提にした上で、面積や人口が同じ中で、どのような違いがあるのかというところを整理していく中で、このような分析を行ったということで、ご理解をいただければと思っている。

特別区以外で、他の自治体でこういうところには負けたくないとか、競争してみたいところについては、分野別では意識しているところがあると思う。例えば、本区は葛飾北斎を強く打ち出しているが、同じく葛飾北斎をテーマにして、北斎美術館を設置している自治体とも、一緒に盛り上げていこうというようなことを意識している。

特別区の人口構成や産業構成は特殊であり、類似している他県の自治体はほとんどないと考えている。そのため、分野別で意識している自治体はあるものの、総合的に、まち全体としてこの自治体に負けたくないみたいなところは、特段ないのではないかと考えている。

(金谷委員)

区民ニーズ調査で、災害に強いまちについてはいつ頃の調査か。年の初めに能登半島沖地震があったが、その後の数字なのか。その前の数字であれば、今はもっと高い数字が出ると思う。

また、まちの魅力づくり、観光、防災など、テーマを分けて、話をしなければならぬ審議会の仕組みであることは分かるが、このまちをどう作るかは、防災にも、まちづくりにも、子育てにも関わってくることだと思うので、その辺のすり合わせをどこかで調整するような仕組みが必要ではないか。

20年前から大地震が来るとか言われていたが、それに対する取り組みがそんなに進んでいないのであれば、やはり横串というか、観光の力を借りて防災力を上げていくというような発想ができる。だから分野で分かれてしまうと、なかなかそのような横串で議論できないと思う。

(事務局)

1点目のアンケートの調査時期について、調査は昨年8月から9月ごろに行っており、能登半島沖地震の前である。取り直すと、おそらく能登半島沖地震の結果などを含めて、さらに防災に対する意識が高まっている結果が出る可能性が高いと認識している。

2点目の全体の擦り合わせについて、一番大切にしなければならないものを全体の話の中で始めてしまうと、中途半端になってしまうため、分野別の話をして、軸をしっかり整えた上で、全体会ですり合わせを行っていければと考えている。

それぞれの部会でまとめたビジョンを議事録という形でまとめさせていただく。委員の皆さんに、所属していない部会も含めて共有させていただくので、各部会で出た議論についても意識していただいて、全体調整を行う全体会のところに進んだ時に、意見交換をしながら調整していければと考えている。

(鈴木委員)

先ほど話のあった防災というのは、防災教育や避難訓練などで、子ども子育てにかなり関係している。委員である我々が部会の中で、ニーズとして踏まえた上で議論していくことを考えた方が良い。

(事務局)

今こういった意見が出ているということを前提にした上で、議論していただける

ことが一番ありがたいと思っている。それで最終的な調整をしていく際にもスムーズに進めることができるのではと思っている。

(平林委員)

区民アンケート調査について、対象が18歳以上ということだが、18歳未満の子どもたちがこれから地域を作っていくことを考えたときに、子どもが今、抱いているニーズ、区のイメージ、不安なことなどのアンケート調査みたいなデータがあれば、ご提示いただきたい。

(事務局)

昨年度の時点では、基本構想の策定に向けて、子どもたちをターゲットにした形のアンケート調査は行っておらず、現状そのようなデータはない。我々としても子ども基本法等の趣旨を踏まえて、子どもの意見をしっかり取っていく。子どもたちを意思表示の主体として捉えていく必要があると考えている。8月の夏休みの時期に大学と連携した形で、子どもたちに、将来墨田区はこういうふうになってほしいというような議論をしていただく場を作りたいと考えている。

また中学生については、区で行っている中学生区議会の取組などを通じて、意見を取っていく。

区長と直接区民の方が意見交換する場であるタウンミーティングを毎年行っているが、今年度は高校生に参加していただくような形で行えないか担当部署と調整している。

そのようなデータを揃えて、早くて11月ぐらいの審議会でお示しできるのではないかと考えている。部会の議論にも参考にしたいと思われるが、子どもの意見は後から踏まえて調整していくというイメージの中で考えていただくとありがたい。

(平林委員)

先日行われた子どもキックオフイベントで、マシュマロの焼き場のところに並んでいる子どもたちにどんな墨田区になったらいいというようなアンケートを取ったと思う。もし、それがまとまっていれば、直近のデータになると思うので、確認していただきたい。

(事務局)

担当の部署とは定期的に意見交換しているので、今のお話を伝えさせていただいて、データを確認させていただく。

(星野委員)

来年で団塊の世代の人たちが全て75歳以上になり、5人に1人が75歳以上の時代となる。その中で1人暮らしも増えている状況がある。商業開発とマンション開発により、ある意味、1人暮らしの老人の住んでいる場所が徐々に少なくなっている。どうやって生きていけるのか、本当に心配していると思う。

だから、75歳以上で1人暮らしの方、同居している方、施設に入っている方が、それぞれどのくらいいるのか。施設がどのくらいあるのか。将来的に高齢者が多くなるので、これからどのくらい施設を作っていく必要があるのか。そのような施設ができていくのを区としてどのように支援していくのか。

以上のことについて検討できる資料はあるか。

(事務局)

昨年度、福祉部門で、高齢者福祉総合計画というものを更新している。基本3年間の計画になるが、今後どういうふうな推計になっていて、3年間の中で現状施設がどうあって、こういうエリアにこういう施設が不足している等を検討しているものがあるので、その中から情報を抜粋して、提供できればと考える。

65歳から74歳までの方と、75歳以上の方では、75歳以上の方が、人口的に多い状況になっており、そういった方々をどのようにして、しっかりと支えていくかということは重要な視点というふうに思っている。

(佐久間委員)

平成17年11月に策定された墨田区基本構想の目標に対する達成度合いが分かる資料はあるか。

(事務局)

論点整理レポートの37ページに現基本構想におけるそれぞれの分野で、どういうふうなまちを作るとということが書かれている。例えばその「基本目標1 墨田らしさの息づくまちを作る」という下に、目指すべきまちの方向性として3つあり、歴史ある文化をお伝えする云々、特色ある多彩な魅力云々や水や緑を生かした云々というふうになっている。

それぞれについて、今、そういうまちになっていると思いますかというところを区民アンケートの中で取った。その結果として黄土色で表示されているものが、どちらかといえばそう思うという表示になっているので、そのようなあたりで、現状の達成度を評価していると思っている。

(佐藤委員)

区民ニーズ調査の中でイメージがあまりないというところで挙げられている4点については、明確な課題だと思う。このイメージがあまりないというところについて、子どもたちの意見を引き出して今後に生かしていただきたい。

(事務局)

今後子どもの意見を取っていく際に参考にさせていただく。ただし我々の方でも気を付けたいと思っているのが、意見を聞くときの質問のフレーム。フレームをはめてしまうと、子どもがそこに引っ張られて答えてしまうというところがあるというふうに聞いているので、できるだけ子どもが、自分の心の中から出てくる言葉を引き出せるように工夫して、それを、我々の方で整理して、みなさんに提供していきたいと思っている。

3 部会の概要、今後の進め方について

事務局から資料4について説明した。

以下質疑応答

(森山委員)

今回の部会の区割りについて、それぞれの部会でメッセージを作っていくとなると、それこそ縦割りになってしまって、横串が刺さるのかなと疑問に感じる。特に墨田区観光協会では観光地域づくりということを念頭に置いて、地域の景観や地域のまちづくりというものも、1つの観光資源という考えをもっている。そうしたときに、産業振興及び観光シティブロモーションとまちづくりを切り分けられてしまうと、そこをどうやって横串刺すのかが見えない。この辺りのところをどのように

していくのか。何とか横串をさせるような形の取組にしていきたい。

(事務局)

その横串のところは、他の委員のみなさんからの意見も含めて、我々としても重要なおところと思っている。他の分野でこういう意見が出ているところを共有させていただくのとあわせて、12月以降にも全体会を開いていく中で、調整すり合わせを行っていくことを想定している。

ただ実際に行っていく中で、このままでは縦割りになるのではというような話が出てくるとも懸念されるので、そこはやっていきながら、微調整をかけていくというところで、ご理解をいただければと思っている。

(木村委員)

基本目標を各部会で作ってから、最後に抽象度を上げて、機能的に理念を考えるというプロセスでよいか。

(事務局)

我々として、今の時点では、何も無い状況から一番上のビジョンを、この27人で合意を作るというのは難しいと考えている。1つ1つ積み重ねながら最後のビジョンを固めていく。

(木村委員)

おそらく多くの皆さんがイメージしているのは、まず共通意識、ビジョンを先に考えた方が横串で話しやすいということだと思う。

(真鍋委員)

日程の確認だが、第2回の第2部会は29日の木曜日、第3部会は22日の木曜日で間違いないか。

(事務局)

ご案内のとおりである。それぞれの日において、該当の部会以外の方は出席の必要はない。もし見学に来たい場合は来ていただいて構わない。

(相澤委員)

時期的に、ゲリラ豪雨や台風が発生する可能性があると思うが、その際はリスクされるのか。

(事務局)

我々としても、これだけの回数の議論をしないと、構想としてまとまらないと思っているので、ご指摘のように開催ができない日程があった場合には、リスクをさせていただくことを前提に協議させていただきたい。

(相澤委員)

オンライン開催とかにした方がいいのかなと思う。

(事務局)

前回は申し上げたが、全員がオンラインでできるというふうになると、やりやすい部分もあるかと思うので、そのようなところも含めて部長さんと協議をさせていただいて、部会全体の総意として、こういうやり方でやるというのがあれば、それは柔軟に対応する形で考えたい。

(上野委員)

資料4の部会まとめ作成イメージについて、第 部会、 分野とあるが、この分野は、その前のページの太字で書いてあることをイメージしているのか。それと

	<p>も、部会ごとに自分たちで考えていくのか。分野を増やしてもいいのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>前のページの太字の部分を1つのイメージとし考えているが、この分野で良いのかということも含めて、7月の部会で議論していただきたいと思っている。</p> <p>おそらくテーマごとに1回ずつやっていく必要があると思っているので、3枚と申し上げたが、もし委員の皆様の中で、4つのテーマとすべきという意見があれば、議論を踏まえてテーマが増えることがあってもおかしくないと思っている。</p> <p>(岸委員)</p> <p>部会ごとに分かれ、意見交換をする場合、それぞれ別の部会の議論についても、議事録を資料として、その都度いただけるようにしていただきたい。それから先ほどの人口の方向性のグラフがあったが、すべて令和で書いてあって、説明はすべて西暦でされていた。今後報告書をまとめていく上で、両方併記されるのか。どちらかに統一されるのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>議事録については全委員に共有させていただく。どれぐらいの期間で議事録をつくれるかは、できるだけ努力をして、できるだけ早めに共有できるようにさせていただく。</p> <p>年号の表記について、行政は基本的には和暦を使うのが原則となっている。ただ、期間中に年号が変わっていくことも考えられるので、おそらく併記をするというような形での対応を想定しているが、今後整理をして報告させていただく。</p> <p>(上野委員)</p> <p>おそらくじゃなくて、併記をするという方向に決めていただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>承知した。確か国が西暦表記になってきている話も伺っているので、整理をして決めさせていただく。</p> <p>4 閉会挨拶 企画経営室長から挨拶があった。</p>
所 管 課	企画経営室政策担当(内線3722)